

Think Globally Act Locally (Vol.1)

ボランティアのすすめ

21世紀がはじまりました。世界はより親密になり、深くつながり合う時代がはじまったのです。他人に迷惑をかけなければいいという考え方から、個人が社会に参加し、自分ができるところを働きかける力が、これからの新しい世界には必要なのです。このような人と人のつながりを、ボランティアとよびます。

ダイアナ故英国皇太子妃の地雷撤去活動は、NGO=Non Governmental Organization（非政府組織）の存在の必要性を大きく知らしめ、日本でも坂本龍一さんを中心とした「ZERO LANDMINE」という活動が行われています。

さて、本校では4月27日に、田村校長より「ボランティアのすすめ」というパンフレットが配布されました。君たち一人一人が持つ、「自分ができるところ」を一緒に考え、活動を支援するために多くの情報を提供する、「ボランティアのすすめ委員会」というものが先生方の中につくられました。この委員会は君たちを応援していくために組織されたもので、担当の先生方は次の通りです。

【ボランティアのすすめ委員会】

委員長：高校教頭秋沢先生、中学教頭横田先生

石井先生、真仁田先生、江野先生、今井先生、海野先生

広田真先生（ボランティア部）

上記の先生方から情報の提供を行います。みなさんからの相談や体験談も待っています。

5階の掲示板にボランティアコーナーを設置しました。

今後情報がある場合は掲示しますので、ご覧下さい。

すぐ活動したい人は、住んでいる地域のボランティアセンターに連絡してみよう。約束された場所にいき、コーディネーターがあなたに適した活動先を紹介します。活動先を訪問し説明を聞き、そして活動開始です。

何からはじめよう？

何ができるのだろう？

と知っている君へ。

ボランティア関連の通信に「Think Globally Act Locally」というタイトルをつけました。「地球規模で考えよう。そして、身近なことからはじめよう。」という意味で、欧米の社会ではボランティア活動の基本的な考えになっています。本校ですすめるボランティアは、「全員が必ず～をすること」という性格ではなく、各人が身近な社会に目を向け、少しずつ社会に参加していくことなのです。学校生活はしっかりと自分をつくるのが大切であり、利他的な活動によって倫理感や国際性が高まり、自調自考の精神につながることを期待しています。そこで、具体的な取り組みのヒントを、「ボランティアのすすめ委員会」の内容とあわせていくつか紹介します。

身近な学校内でできること・・・

各委員会活動でアイデアを出し合ってみませんか。「相手を思う心」をもちよって、自分たちの学校生活に活かしましょう。

社会に目を向けよう・・・

社会に貢献するといっても、急には無理だと思うのも当然です。まずは、世の中のことや自然や文化などに興味をもつことも大切です。各教科担当者とも協力し、図書館にコーナーを設けたり、プリントで校外学習できるところを紹介していきます。(ゴールデンウィーク特集号も出します) また、市民ニュースなど地方自治体の情報誌にも目を通すと、体験学習の案内なども出ていますので、活用してみてください。

すぐに活動したい・・・

クラブ活動としてボランティア部を立ち上げます。学校宛てにくるボランティア募集への参加よびかけ、各個人で希望した生徒たちの窓口となり、活動を協力・支援します。固定した部員もいますが、誰でもこの部活に入部していると考えてください。

情報の共有・・・(ボランティアの活動報告)

君たち一人一人が判断し、何かしらの活動を起こしたのであれば、それをぜひとも報告してくれるとありがたい。ボーイスカウト・ガールスカウトなどの活動をしている人、地域の清掃活動に協力している人、家族など身近な人の介護をしている人などの経験談が一番の情報になります。

インターネットでボランティアという言葉で検索してみよう。

「NHKのボランティアネット」

「全国ボランティア情報」など、自分で情報を収集することもできます。